

学校の授業に「森林」を取り入れよう！ ～箕面国有林での教員向け研修の取組～

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林を活用した環境教育の理解を深め、学校等教育機関での実践・普及に取り組んでいます。普段の生活の中で森林と関わり、木材の利用などについて体験し、学ぶ機会を増やす必要があると考えています。このような中、箕面市内の恵まれた自然環境、とりわけ森林を学習に取り入れることが有効であると考えている同教育委員会と連携して、教員向け研修を平成16年から毎年実施しています。



7月28日(木)、箕面国有林勝尾寺園地において大阪府の箕面市教育委員会と共催して、森林環境教育研修を開催しました。研修には、箕面市と豊能町から30名(小学校18、中学校12)の教員が参加しました。箕面市では採用2年目教員の必修研修になっています。

「主体的・協働的な学び」に有効な森林環境教育

京都教育大学の山下宏文教授から、森林環境教育のポイント(体験する、知る、かかわる)。次期学習指導要領改訂の中で求められる「主体的・協働的な学び」として森林環境教育の有効性などについて講義。参加者から「箕面の身近な自然環境を活かした環境教育に取り組みたい」「5年生の授業で、具体的な指導に役立つ」等の意見。



京都教育大学の山下教授



子どもが「なぜ？」と思う『昆虫の不思議』

大阪府立箕面公園昆虫館の久留飛克明館長から、昆虫の胴体のこと、複眼のこと、羽のこと、飛び方のことなど昆虫の特徴や幼虫から成虫への変化のしかたの違いなど、子どもが「なぜ」と思う視点で参加者に問いかけ、昆虫のすばらしさと不思議さについて講義。参加者から「子どもたちに話してみたい内容が多くあった」「なぜ？と疑問をもつことの大切さを学んだ」等の意見。



箕面公園昆虫館の久留飛館長



ネイチャーゲームを体験

大阪森林インストラクター会の指導で、自分の背中につけられた生き物の名前を相手に質問して推理する「動物交差点」、集めた葉っぱで勝負する「葉っぱじゃんけん」を行いました。参加者から、「子どもたちが自然にどんどん親しんでいく様子が思い浮かんだ」等の意見。



水源の森ジオラマづくり

森林と水との関係についての話を聞いた後、きんきちゅうごく森林づくりの会メンバーの指導で作成。参加者から「自然について勉強した後で作るので、より大切にしたい気持ちが強くなった」等の意見。



教育センターから環境教育の取組に感謝



プログラム終了後、箕面市教育センターの松田課長補佐から「身近なところに大変すばらしい箕面の森があることを知ってもらいたい。そして、教員研修が共催で長く続いているのは箕面森林ふれあい推進センターなど、協力体制があることも知ってもらい、子どもたちの環境教育に取り組んでもらいたい」と、実践への期待を込めた挨拶をいただきました。

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育の学校での普及を図るため、この取組を今後も続けていく考えです。

